

中学生に読み聞かせの授業

3月14日、かみやなぎブックサポーター（代表森井路子さん）は上矢作中学校の1、2年生46人を対象に読み聞かせの授業と、同校に7作品174冊の本を寄贈しました。同サポーターは、市中央図書館が進めている「地域読書活動推進事業」の委託を受けており、本を通して子どもたちの学習を支援していこうと、同校と連携し行われました。

生徒たちは物語の世界に引き込まれるように聞き入っていました。



読み聞かせをするサポーターと物語に聞き入る生徒たち

地球に 学校に 恩返し



学び育った学校の校庭にやさしく植樹する児童

3月11日、明智小学校でこの春卒業する6年生の児童44人が、環境にやさしいオムラサキツツジの苗木30本を校庭南側に植樹しました。

苗木は、3年生の高さ約40センチほどの大きさで、二酸化炭素を吸収し地球温暖化を防ぐ役割を果たす大気環境木として、県が寄付金を募り植栽をすすめているもの。児童は、6年間お世話になった学校への感謝を込めるように掘った土に肥料を混ぜ、優しく苗木を植え付けました。

大正村に春告げる足音

3月16日、明智町で第24回日本大正村クロスカントリーが開催され、遠く北海道をはじめ県内外から参加した約1800人のランナーが大正村の町並みを駆け抜けました。大会は、10マイル・6マイル・2マイルの3コース23部門に分かれ、スケートショートトラックで3度の五輪出場を果たした勅使川原郁恵さんをゲストランナーに迎え開催。表彰式やお楽しみ抽選会のほか、各種バザーやサイン会が行われ、会場は多くの人でにぎわいました。



うららかな天候の中楽しく走る参加者

受け継がれる太鼓の心



力強く中山太鼓を演奏する卒業生ら

3月11日、串原中学校で卒業式と中山太鼓免許状授与式が行われ、見事な太鼓演奏を披露した後に、卒業生3人が免許状を受け取りました。

式典では、寄せ、神囃子など5つの中山太鼓を全校生徒で披露。元太鼓リーダーの原田智司さんら卒業生に大島二三一保存会長から免許状と記念品が渡され、免許状授与者は通算で371人となりました。式典の最後には、在校生の力強い太鼓に見送られ、卒業生3人が退場し、式典は終了しました。

健康と幸福を祈る伝統料理

2月27日、アグリパーク恵那で恵那の味・伝承講座が開催され、受講生13人が参加しました。講師には、長島町の農業婦人団体「ひまわりグループ」から水野百合子さんと永屋美佐子さんを迎え、ひな祭りに健康と幸福を祈って作られていた伝統料理のからすみと豆もちを作製。受講生の小栗史華さん（武並町）は、「からすみは独特の固さがある、かむごとに味わい深さを感じますが、こんなに力仕事だとは思いませんでした」と、驚いていました。



蒸したからすみを型に入れて山の形に整える受講生

叙勲受章者の功績祝う



式典に出席された受章者の皆さん

2月23日、叙勲受章祝賀会が開かれました。受章されたのは、元土岐市立泉小学校長木原拓郎さん、元大井小学校長長谷川博美さん、元瑞浪市立土岐小学校長山内洋利さん、元中津川市立第二中学校長渡辺春正さん、元明智町長成瀬郁夫さん、元労働事務官市川義晴さん、元岩村町消防団長鈴木慶隆、元市議会議員丸山定男さんの8人。代表の成瀬さんは、「皆さんに感謝で一杯です。これからも車の後輪の仕事で一生懸命後押ししたい」と述べられました。

力作並ぶ、子ども版画展

3月9日、中山道広重美術館で第4回こども版画コンクール表彰式が開催され、広重賞に入選した樫村一毅君をはじめ44人に賞状と記念品が渡されました。コンクールには、2,948点の応募があり、特別賞22人、奨励賞22人など160点余りの作品が美術館に展示されました。応募作品は毎年増えており、版画技術の向上に加え、身の回りの出来事への感動を表した作品、地域の伝承や景観など自分の住む地域へ目を向けた作品が多くみられました。



入賞作品をプリントしたシャツを受け取る樫村君

手遊びで親子のスキンシップ



手遊びを学ぶ受講者

2月26日、市中央図書館で手遊びふれあい遊び講習会が行われ、市民ら約30人が受講しました。同図書館では、市民のボランティアによる図書館サポーターと同図書館職員と協働で「おはなし会」を開催しています。これは本を通じて親子のコミュニケーションをとってもらおうと毎週火曜日と土曜日に開催されており、乳幼児を持つ親子の参加も多く絵本の読み聞かせだけでなく、わらべ歌や手遊びなども必要なことから同講習会が開催されました。

中山道広重美術館
企画展覧会

会期
4/10(木)～6/15(日)

前期: 4/10(木)～5/11(日)
後期: 5/13(火)～6/15(日)
各期展示替えを行います

開館時間 午前9時半
～午後5時(入館は午後4
時半まで)

観覧料 ▷大人=800円
(団体650円) ▷小・中・高
校生=500円(団体400円)

毎週月曜日(祝日を除く)
祝日の翌日(土日・祝日を除く)
休館。ただし4/28(月)は開館。4
/7(月)～9(休)は展示替え休館。

問い合わせ 中山道広
重美術館☎20-0522

「江戸情緒 名所江戸百景」



歌川広重
「名所江戸百景 吾妻橋金龍山遠望」

大判錦絵 吉村コレクション
安政4(1857)年8月

「名所江戸百景」は歌川広重の最晩年の大作。そのシリーズ中の一枚「吾妻橋金龍山遠望」。

この作品は、春風で桜の花びらが舞っている中での、船遊びを描いています。芸者の後ろ姿だけ見える構図が斬新です。タイトルにある吾妻橋は隅田川に架かる橋で、左奥に見えます。また金龍山は浅草にある金龍山浅草寺のことで、本堂と五重塔が遠くに見えています。さらには遠く富士を眺めることもできます。富士に桜に船遊び。穏やかな春のひとつときといえるでしょう。

第1日曜日は「市民の日」

4月6日から毎月第1日曜日を「市民の日」とし、観覧料を無料とします。気軽に美術の世界に触れていただき、文化活動やまちづくり活動の拠点に活用いただけるよう願っています。

文化財を巡る

国の重要文化財 武並神社本殿

平成の大修理始まる

武並神社は、伝承では承久年間(1219～1222)創建といわれ、永禄7(1564)年、岩村城主の遠山景任が本願(発起人)大井城主の藤井常高が勧進元(世話人)となり、近郷の城主の協力を得て再建、その後、寛文12(1672)年、大井村の庄屋井口氏を中心に村の有力者たちによって大修理が行われたとされています。現在の本殿は、一部を除いて室町時代の再建当時の姿を良く残していることから、平成元年5月に国の重要文化財に指定されました。

貴重な歴史的建造物は、木造の場合、数百年ごとに根本的な修理を行い、その間数十年ごとに屋根のふき替えや塗装などの維持修理を行いながら、大切に残されてきました。

武並神社の大修理は、明治33(1900)年以来となり、22年度までの4カ年度計画で、本殿そのものを完全に分解する解体修理を行います。柱や梁など部材の一本一本を調査した後、傷んで使えない部分のみ新しくして、再び組み直すという、全国で一度に

数箇所で行われられない本格的な修理です。本殿がいったん地上から姿を消すのは来年6月ごろ。7月・8月には、通常では行うことができない本殿の基礎部分の試掘調査も実施する予定です。

修理工事現場は、安全面などに配慮するため常時公開することはできませんが、工程のポイントとなる時期を選んで現場見学会、説明会を開催しますので、その折には皆さん、ぜひ足を運んでください。

武並神社の古い写真を探しています。お持ちの方がありましたらご一報ください

問い合わせ 文化課☎43-2112(内線217)



軒の出が深いのが特徴となっている本殿

伊藤喜美さん名誉市民に

3月20日、名誉市民に推挙された伊藤喜美さん(株パロー相談役名誉会長)の名誉市民推挙式が恵那文化センターで挙行され、市民ら約850人が参列しました。

式典では市長から名誉市民推挙状と名誉市民章の贈呈があり、伊藤さんは「全く身に余る栄誉。この恵那の土地が私を育ててくれたと感謝しています。名誉市民の栄誉を生涯の誇りとしていきます」とお礼を述べました。



名誉市民推挙状を受け取る伊藤さん☎

梅露庵公園で「狐のよめ入」再現

新古今集などの歌人として知られる西行法師が、庵を結んだと伝えられている長島町永田の梅露庵公園で3月23日、梅露庵公園梅まつりが開催されました。会場では、西行法師にちなんで、公園を題材とした俳句や和歌の募集や特産品の販売がありました。また歌川広重が手掛けた「王子道狐のよめ入」を再現する催しも開かれ、狐の面に和服姿の行列が、枝垂れ梅などが咲く園内を練り歩き、多くの来場者の注目を集めていました。



「王子道狐のよめ入」の行列

東野小にエコちゃん設置



回転するプロペラを眺める児童

東野小学校に昨年12月、風力・太陽光発電システムが設置されました。このシステムは、地球温暖化や環境問題に関心を持つ東野地域協議会が、環境保護の学習機会にと小学校の一角に設置しました。愛称は児童から募集し、ことし3月に「エコちゃん」と名付けられました。「エコちゃん」は、通常150ワットの出力があり、校内の水槽や電光掲示板に電力を供給しています。4月からはクラブ活動で年間の統計調査をするなど、環境学習に活用されます。

武並駅南口が供用開始



テープカットをする園児と出席者

3月19日、JR武並駅南口の完成・供用開始に伴い、開設式が行われました。安全性の理由で平成18年11月から閉鎖されていた南口は、地元負担により鉄筋造2階建て、男女トイレ・多目的トイレ・昇降機完備と装いを新たにしました。式には関係者20人と地元武並保育園の園児70人が出席。可知市長は「武並駅は市の西の玄関口。交流人口の拡大、産業の発展につなげたい」とあいさつをしました。その後、テープカットで完成を祝いました。